

川原石地区 まちづくり計画書



川原石地区まちづくり委員会

目

次

1	はじめに	2
2	川原石地区の歴史	3・4
3	地域の現状と課題	5
4	アンケート調査結果	6・7
5	川原石地区のスローガン・活動方針・活動内容	8
6	まちづくりの基本方針	9・10・11・12・13・14
7	まち歩きで見えてきたこと	15・16・17・18
8	プロジェクトX	19・20
9	地域で取り組んでいる主な活動	21
10	位置図・まちづくり計画策定に関わったメンバー	22

- ☆ 参加を大切にするまち
- ☆ 一人ひとりを大切にするまち
- ☆ 環境を大切にするまち

を目指して

はじめに

“まちの主役は、地域で生活している私たちです！”を計画づくりの柱として、これまで様々な活動を通じて地域を支えてきた自治会や、川原石地区社会福祉協議会、民生委員児童委員会など、地域で活動されている各種団体の方々や多くの地域の方々から協力を得ながら、アンケート調査や地域探検（まち歩き）などを実施いたしました。各種団体等の活動状況や地域に住まわれている方々の意識や意向の把握とその反映に努めるとともに、川原石地区には、自然や歴史的文化など多彩な地域資源が息づいており、それらを守り、さらに魅力的なものにするために新たな発想も取り入れ、地域全体、また、それぞれの地区の個性を生かし生み出す計画づくりを目指しました。

なにぶんにも、初めての取り組みであるため戸惑いの連続でしたが、今後は計画の見直しも含め、さらに充実した活動となるよう頑張ってみますので、地域の皆様のご支援とご協力をお願い致します。



川原石地区まちづくり委員会
会長 川畑勝之

川原石地区の歴史

明治35年4月1日、広島県安芸郡吉浦村のうち川原石、両城の地区が分離独立し、二川町が設置されました。これは呉市制施行のための1つの布石であったからです。

もともと吉浦村は落走、吉浦、川原石、両城の4地区からなっていました。川原石と両城はその位置が接近し、地勢上、落走、吉浦の2地域と隔絶の状態にありました。したがって村役場のおかれていた吉浦とは交通の便も悪く、また行政上の不利もまぬがれませんでした。鎮守府開設時代、明治20年末の戸数は両地域合わせて137戸、人口は617人にすぎず、1個の自治体として独立することは行・財政的に不可能でした。



しかしその後海軍の拡大充実に伴う呉港一帯の発展とともに呉湾に面し和庄町につらなるこの地区は物資輸送と海上交通の拠点となり、市街化が急速に進行していきました。人口もこの十数年間に急激な膨張をとげ、34年末には戸数1,567戸、人口6,909人となり、20年代のそれぞれ10倍以上に達しています。

川原石、両城地区のかかる発展、変貌は、吉浦村の行政上に大きな影響を及ぼし、村内では両地区を分離独立させることが、それらの地区にとっても、また吉浦村自体にとっても得策であるとの見解が有力となり、その結果、吉浦村議会では川原石、両城地区の分割と、それに伴う二川町の新設が議決されました。

明治35年4月1日の二川町設置とともに、石田亀太郎が町長代理者として町制施行の諸手続にあたり、同年6月8日には町議会議員の選挙が行われました。

ついで6月16日第1回の町議会が招集され、町長選挙が実施された結果、末永末太郎が正式の二川町長に選ばれました。

こうして末永町長の手によって町制が進められることとなったのであります。二川町の設置はあくまで呉市政実施の前提ないしその一過程であり、半年後の35年10月1日、宮原村など3か町村と合併して呉市を誕生させたのでした。

中通1丁目とともに呉市の2大卸売市場を形成していた海岸通2丁目及び3丁目は、吉浦道路の開削に伴い、大正後期に埋め立てられた新開地ですが、この埋立地には大正10年3月に海岸通青物市場が、14年4月に呉青物市場株式会社が設立されました。さらに昭和3年に呉水産株式会社が創設され、海岸通は鮮魚と青物からなる船便のよい市場として発展していくこととなりました。

(呉市史より)



地域の現状と課題

川原石地区は、前面に海岸線（呉湾）を望み、背後には小高く急峻な山々に包まれた瀬戸内特有の地形を有する地域です。

古くは市の中心的役割を担い、中央卸売市場や問屋街が軒を並べて活況を呈していた時代もありましたが、市場の移転や規模の縮小などもあり、商業地域から居住地域へと移行しています。

呉市の中心市街地やJR呉駅周辺の商業地域へも短時間で移動可能であるため、住宅地域としては良好な立地距離にあり、併せて交通の便も良く、買い物などの不便さを感じる地域ではありませんが、地域内には高齢者世帯も多く、若年世代が減少傾向にあります。地域内の幹線道路や生活道路の整備の遅れに加え、一般国道31号やJR呉線によって地域が南北に三分割され、また小学校区も港町小学校と両城小学校の2校に分かれるといった構造的要因が重なり、地域としての一体感の醸成を図るには厳しい環境に置かれていますが、地域全体で取り組む行事を実施するなど、自治会を中心としてまとまりを保っています。更には女性会、民生委員児童委員協議会、地区社協を始めとする各種の団体も、行政に依存することなく、相互に協力しながら自立した独自活動を展開していますが、将来的には、地域としての機能低下が懸念されるところでもあり、地域としての一体感の醸成と継続が今後の課題となっています。

地域内には狭隘な道路も多く、併せて木造家屋も密集しており、人とひとの出会いや会話が聞こえるような、温かみのあるまちを感じられる一方で、防災面や利便性など、地域の特色と併せて課題も抱えています。

まちづくり アンケート調査の結果

調査期間：平成21年7月10日～7月31日

対象者：川原石地区自治会連合会区域に居住する人

調査方法：各単位自治会,各班長を通して調査票の配布及び回収を行った。

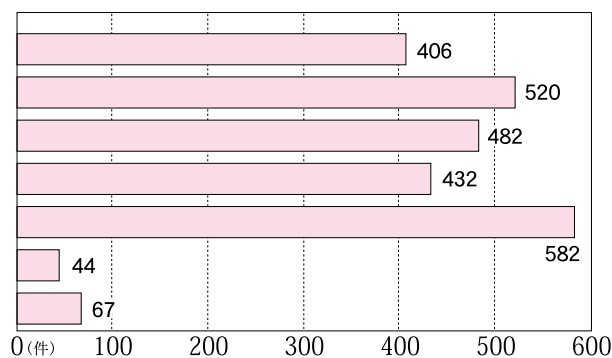
回答者数：1,336人(件)



1 住みやすいと感じているところ

全体(合計)では“交通が便利である”が23.0%で最も多く、次いで“のんびり暮らせる”20.6%、“住民の人柄が良い”19.0%などとなっている。

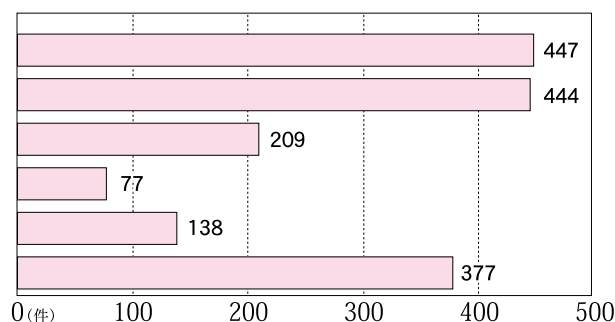
区分	件数(件)	割合%
自然環境が良い	406	16.0%
のんびり暮らせる	520	20.6%
住民の人柄が良い	482	19.0%
買い物など便利である	432	17.1%
交通が便利である	582	23.0%
その他	44	1.7%
不明	67	2.6%
計	2,533	100.0%



2 住みにくいとと感じているところ

全体(合計)では“地域に活気がない”が26.4%で最も多く、次いで“買い物が不便である”26.2%、“交通の便が悪い”12.3%などとなっている。

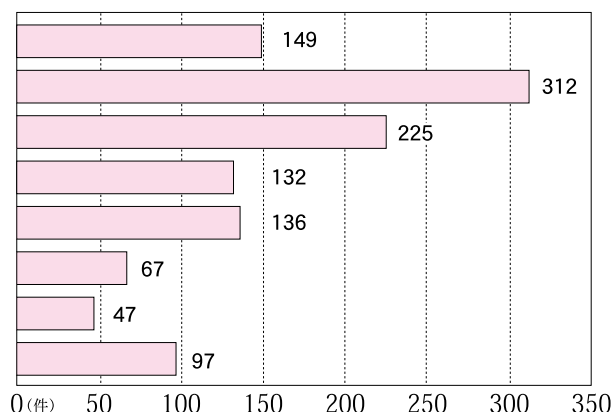
区分	件数(件)	割合%
地域に活気がない	447	26.4%
買い物が不便である	444	26.2%
交通の便が悪い	209	12.3%
地域のつき合いが大変である	77	4.6%
その他	138	8.2%
不明	377	22.3%
計	1,692	100.0%



3 続けたほうがよいと思われる行事・活動

全体（合計）では“防犯パトロール”が26.8%で最も高く、次いで“清掃美化活動”19.3%，“交通安全活動”12.8%などとなっている。

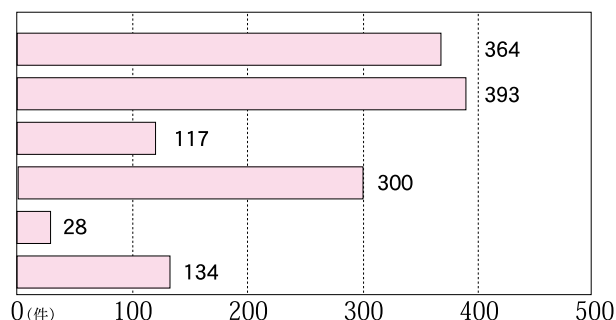
区 分	件数 (件)	割合 %
交通安全活動	149	12.8%
防犯パトロール	312	26.8%
清掃美化活動	225	19.3%
敬老会	132	11.3%
運動会	136	11.7%
ソフトボール	67	5.8%
祭り・花火大会	47	4.0%
その他	97	8.3%
計	1,165	100.0%



4 川原石地区が将来どのような地域になればよいか

全体（合計）では“住民がいきいきとした明るい地域”が29.4%で最も多く、次いで“住宅地や働く場所の増加，若者の定住”が27.2%，“お互いを助け合える地域”が22.5%で、これら上位3番目までで約8割(79.1%)を占めている。

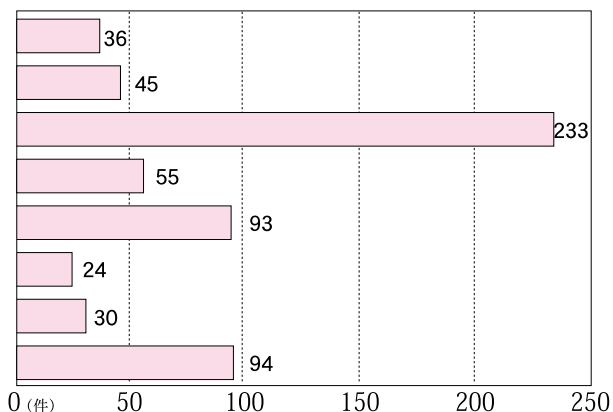
区 分	件数 (件)	割合 %
住宅地や働く場所の増加，若者の定住	364	27.2%
住民がいきいきとした明るい地域	393	29.4%
海岸線や公園などを美化・活用	117	8.8%
お互いを助け合える地域	300	22.5%
その他	28	2.1%
不明	134	10.0%
計	1,336	100.0%



5 どのような行事に参加（協力）できるか

全体（合計）では“清掃美化活動”が38.2%で最も多く、次いで“運動会”15.3%，“敬老会”9.0%などとなっている。

区 分	件数 (件)	割合 %
交通安全活動	36	5.9%
防犯パトロール	45	7.4%
清掃美化活動	233	38.2%
敬老会	55	9.0%
運動会	93	15.3%
ソフトボール	24	3.9%
祭り・花火大会	30	4.9%
その他	94	15.4%
計	610	100.0%



川原石地区のスローガン・活動方針・活動内容

■スローガン

住みたい町川原石
私も子供も
その孫も

■活動方針

住みたい町川原石

- 親しみのある景観づくり
- 地域資源の把握と情報発信
- 緑と水辺空間の整備

住みたい町川原石

- 環境に優しい社会の実現
- ゴミの減量化とリサイクルの推進
- 美化活動の推進

住みたい町川原石

- 生活の安全と安心の確保
- 災害に強いまちづくり
- 健康づくりと世代間交流
- 子育て環境の充実
- 海辺の魅力づくり

まちづくりの基本方針

住民参加による

- ・ うるおいあるまちづくり
- ・ 環境にやさしいまちづくり
- ・ 安心して暮らせるまちづくり

うるおいあるまちづくり

親しみのある景観づくり

自然環境や歴史的資源の保全・活用、緑化の推進や街並みづくり、魅力ある公園づくりなどを進めるため、住民意識の啓発と併せて、住民や各種団体等が協働して取り組むシステムの確立を図ります。また、川原石地区らしい風景のあり方の調査・研究をもとに、地域全体及び特定地域において、親しみのある風景、特色ある風景の保全や創出に努めます。



<施策の展開>

☆ 市民協働による地域づくり

地域全体やそれぞれの地区の特色を生かしながら、親しみのある環境と風景づくりを進めるため、計画づくりや住民意識の啓発と併せて、住民参加や関係団体などが協働して取り組むシステムの確立に努めます。



地域資源の把握と情報発信

自然環境や歴史的・文化的資源などの調査、発見、再評価等を進め、その結果や内容を分かりやすく魅力的に情報発信できるよう努めます。

☆ 地域ぐるみの体制づくり

川原石地区らしいおおいのある環境と風景づくりを進めるため、地域住民や関係団体が一体となって、地域資源の保全・活用や緑化・美化活動、各種催し等を総合的に推進で



きる体制づくりに努めるとともに、交流の場の創出に努めます。併せて地域の拠点となる集会所などの機能強化や施設の充実に努めます。

☆ 歴史を生かした環境と風景づくり

自然環境や街並みの中に息づく文化財など、周辺の環境や風景を特徴づける資源として保存・活用を図ります。

緑と水辺空間の整備

自然緑地や歴史的資源などを生かし、植栽や遊具の工夫など、特色ある多様な公園緑地を目指します。

海や川の環境保全に努めながら、水に親しむ空間の整備や生き物のすむ環境づくり、自然観察の場の確保など、地域に息づく海辺や川辺、緑の環境保全・活用など、魅力づくりに努めます。

住民参加の公園づくりとともに、地域に息づき大切にされる緑地や水辺空間となるよう努めます。



環境にやさしいまちづくり

環境に優しい社会の実現

地域住民の環境意識の高揚を図り、自主的な環境保全と美化活動の推進に努めます。

ゴミの減量化とリサイクルの推進

家庭ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化、リサイクルを推進します。

美化活動の推進

美しく豊かな道づくりとコミュニケーションの広がり、美化意識や道路利用者のマナーの向上を図るため、住民の理解と協力のもとに、地域ぐるみで取り組む身近な道路の清掃活動などを推進します。

安心して暮らせるまちづくり

生活の安全と安心の確保

①交通安全運動の推進

各種団体や関係機関との連携を図りながら、地域ぐるみでの交通安全運動を推進します。

②防犯対策の推進

住民の連帯感や防犯意識の高揚を図り、地域ぐるみでの防犯活動を推進するとともに、警察活動の充実・強化を求め、安心して暮らせる地域を目指し、防犯灯の設置など犯罪の起こりにくい環境づくりに取り組みます。

行政、警察、住民、地域団体との連携のもとに、地域ぐるみでの防犯活動を推進し、犯罪や青少年の非行を誘引するような社会環境の浄化に努め、地域としての抑止力の向上を図ります。

③AEDの普及と講習開催による安全対策

心肺停止者の救命率の向上を図るため、AEDの設置を促進し、効率的に使用するための救命講習会の受講促進に努めます。

災害に強いまちづくり

防災のための組織体制の強化と併せて、住民の防災意識の高揚、自主防災組織やボランティアの育成などに取り組み、地域ぐるみでの総合的な防災体制づくりに努めます。

情報の伝達を円滑にするため、地域内有線放送を活用し情報の共有化に努めるとともに、自治会を中心として各種団体との交流や相互協力と併せて情報の共有化に努めます。

<施策の展開>

☆ 地域ぐるみでの防災体制づくり

住民の防災意識の高揚や自主防災組織の育成などに取り組みながら、各種団体や関係機関と連携した地域ぐるみでの総合的な防災体制づくりに努めます。

①住民の防災・防火意識の高揚

各地域は勿論のこと，地域全域での防災訓練の実施などに努め，住民の防災意識の高揚を図ります。

初期消火知識や地震時における対策の普及に努めるとともに，地域や職場，学校等において防火訓練などの実践活動を推進し，防災意識の向上と自主防災体制の充実を図ります。



②自主防災組織の育成・強化

地域ぐるみでの防災体制を強化するため，自主防災組織の育成・強化に務めると共に，各種団体や関係機関との連携強化に努めます。



③ボランティア活動の環境整備

災害時においてボランティアの協力を迅速かつ効果的に得るため，各種団体を始めボランティア団体との連携に努めます。

健康づくりと世代間交流

高齢者が生き生きと暮らせるよう，様々な場面と機会を通じて健康づくりを進めるとともに，世代間交流や生涯学習活動の推進に努めます。



子育て環境の充実

安全な生活環境づくりや快活に遊べる場の確保など、子どもたちの活動の場の整備・充実を目指します。

海辺の魅力づくり

海辺の魅力づくりを進めるため、防災安全性や立地性を考慮しながら、海とふれあえる親水域づくりを目指します。

むかし

なつかし

川原石



まち歩きで見えてきたこと…



平成21年3月20日（祝）に、川原石地区まちづくり委員会のメンバーでまち歩きを行いました。

参照 呉市二川公民館 二川ふれあいクラブ発行『ふたかわ』

★恵美須神社

（元）宮原村，呉町の波止に鎮座していましたが，明治19年呉鎮守府設置により，強制立ち退きの住民とともに川原石地区，東浜の波止に移転しましたが，土地も狭く波止場拡張の折りに西浜に再移転しました。



そしてさらに明治42年に現在地に移転し，社殿老朽化のため，昭和42年に再建し現在に至っています。現在の社殿は，故郷宮原村の呉町に向かって建てられています。

★良い子橋・魚見山隧道

国道31号線の魚見山隧道の開通により，港町小学校分校児童の通学用専用橋として，昭和23年に完成しました。そして昭和34年6月8日に，鋼鉄橋に掛け替えられました。昭和37年3月31日に港町小学校が廃止になってからも，地域住民の大切な橋として利用されています。



★呉線の架道橋

呉線が明治36年に敷設された時に築造されたレンガ造りの架道橋が現在3本残っており、新宮町と西塩屋町の2本は、現在も地区住民の生活道として利用されています。



いずれも高さは人間の高さくらいで、幅も狭く、構造は花崗岩の石積みの上に、レンガを半月または馬蹄形に積んでいます。港町小学校の西側、現在の川原石駅の下にも同じ構造の西の谷架道橋がありましたが、昭和57年に今の高架型に改良されました。

★呉市立港町小学校

明治12年に校名を緝熙舎として吉浦村字川原石（現在の西川原石町）に公立学校として誕生しました。校舎は吉浦村誓光寺の川原石説教所を借用して教室にしました。校名はその後何度も移り変わり、昭和22年4月に現在の呉市立港町小学校になりました。



★アームストロング砲

古い記録では、旧帝国軍艦「浪速」「高千穂」に英国アームストロング・ウィットウォース会社製の砲を積み込んでおり、一説には軍艦が軍艦「三笠」か「浅間」の鑑砲を取り替えたとき、呉工廠内にあったのを学校がもらったと言



われています。昭和3年には既にあったそうです。戦争中の金属供出も免れて、港町小学校庭の東側、体育倉庫裏に2本立っていましたが、1人でも多くの人に見てもらえるよう平成21年12月に大和ミュージアムに移転、展示されています。

★（元）佐藤参謀長の旧宅

呉鎮守府・初代参謀長の佐藤鎮雄海軍大佐は、呉鎮守府建築委員副長として明治19年10月に赴任しました。その住宅として澤原為綱が川原石の高台に当時では非常に珍しい和洋折衷の平屋を建てて提供し、「静観亭」と呼びました。



更に明治22年に呉鎮守府参謀長となり、この家から毎日人力車で鎮守府に往復していたと言われています。この澤原別荘には、昭和16年1月横須賀海浜団副長から呉鎮守府第2陸戦隊指令を命ぜられた大田実大佐が着任され、ご家族が多かったこともあり、この別荘を借りて住まわれました。終戦までご家族の在住があったことは、最近では知る人も少なくなってしまうました。大田さんは昭和20年4月に沖

繩方面根拠地隊司令として自決されました。現在は坂田氏の所有で、外観は建てられた当時の姿を良く残しており、明治中期洋風建築の様式を見ることができます。

★照日神社

神主、太刀掛佐渡守朝臣信好の書き残した縁起によると文明年間に石田左近尉三藤の造営で宮司、太刀掛伍郎次郎能賢が遷宮を奉仕したと伝えています。当神社は創建以来、度々造営されてきましたが、明治4年再建の社殿も老朽化し、昭和45年11月に550万円の浄財により鉄筋コンクリート現在の神殿が再建されました。



★呉市地方卸売市場

昭和25年に駐留軍により返還になった旧海軍・軍需部の建物を使用し、昭和26年に開場しました。当時、中国四国地方で有数の規模を誇っており、全国では11番目、県内では2番目の早い開場でした。

★二川公民館

二川公民館の前身である二川青年会館は大正15年地元の青年団が若者達の交流の場として建てられました。それ以来活発な二川地域の青年や女性団体など広範な地域活動の拠点として利用されました。それからも色々な地域活動に利用されましたが、老朽化した施設では新しい取り組みや多彩な学習ができなくなり昭和58年に青果市場の移転した跡地に地域住民待望の新しい公民館が完成しました。

プロジェクト X

多様な住民参加の場づくり

■ワークショップ方式などの導入

- コミュニティ活動やボランティア活動の支援



にぎわい交流拠点の創出

■地域や住民が中心となったイベントなどの開催

- 商店街などを活用した交流の場づくり

住民主体の活動組織づくりと交流の促進

■拠点施設の機能強化と設備の充実

■伝統文化行事等の促進

- スポーツ・レクリエーションの催し等の促進
- 魅力あるイベント（夏まつり等）の開催



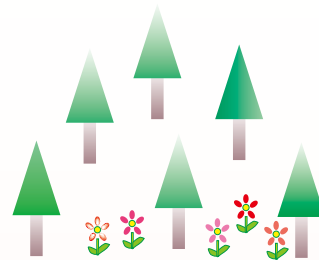
住民参加の環境美化活動の推進

■身近な環境の美化

- 住民参加による美化活動

ゴミの減量化とリサイクルの推進

- 分別収集の徹底
- ごみの減量化とリサイクルに向けた多様な取り組み



防災情報連絡システムの活用と推進

- 地域内有線放送を活用しての情報の共有化
- 放送設備の管理支援と推進
- 連絡体制の強化

地域で支える防災体制づくり

- 地域防災意識の高揚と連帯感の醸成
- 消防団や民生委員児童委員など各種団体や関係機関との連携強化
- ボランティア活動の推進
- 地域防災機能の強化
- AEDの普及と講習開催



いきいき健康づくりの推進

- 健康づくり意識の高揚と自主的な活動の促進
- サロン事業の推進
- トリムコースの新設

地域で取り組んでいる主な活動

実施時期	事業名	場所	対象者	主要実施団体
4月	両城小 交通安全	両城小学校	両城小児童	補連協, 交通安全推進協議会
	両城中 交通安全	両城中学校	両城中生徒	補連協, 交通安全推進協議会
	子ども会, 花見	かもめ公園	自治会員	海岸第1自治会
	グランドゴルフ大会	二川グラウンド	地域住民	海岸第1自治会
5月	二河峡バーベキュー	二河峡広場	自治会員	海岸第1自治会
6月	両城小学校交通安全大会	両城小学校	交通安全推進委員	
	地区対抗ソフトボール大会	マリンパーク川原石	地域住民	中央西体協
	グランドゴルフ大会	二川グラウンド	地域住民	
	子ども会グランドゴルフ大会	かもめ公園	地域住民	海岸第1自治会
	家庭救急法講習会		地域住民	海岸第3自治会
	ゴキブリ団子配布		自治会員	海岸第4自治会
7月	献血	川原石棧橋	地域住民	日赤奉仕団
	ふれあい日よう市	町内メインストリート	自治会員	海岸第4自治会
8月	花火大会		自治会員	海岸第1自治会
	川原石地区人権総会	二川公民館	地域住民	
9月	敬老会	二川公民館	地域住民	
	3地区合同町民運動会	マリンパーク川原石	地域住民	自治会, 西体協
11月	恵美須神社祭礼		地域住民	
	町民レクリエーション		自治会員	東塩屋1区自治会
	自主防災会合同研修会	二川公民館	地域住民	自主防災会
12月	ロードレース大会		両城小, 港町小, 両城中, 地域住民	中央西体協
1月	海四口トくじ	川原石集会所	自治会員	海岸第4自治会
3月	慰労会	川原石集会所	役員, 班長	海岸第4自治会
通年	町内一斉清掃			公衛協ほか
	資源回収			各自治会
	防犯パトロール			防犯連合会
	交通安全啓発活動			交通安全推進協議会
	青少年補導連絡協議会	二川公民館	補連協会員	補連協
	ふれあいいいききサロン			各自治会
	防災訓練			各自治会

上記事業は一例ですが、みなさんの参加とご協力をお待ちしています。
 単位自治会や各種団体は、それぞれ独自に事業を実施し、地域を守り・
 盛り上げています。

【位置図】



▲呉市二川公民館 二川ふれあいクラブ発行『ふたかわ』より抜粋

【まちづくり計画策定に関わったメンバー】

◆川原石地区まちづくり委員会名簿

川原石地区自治会連合会	川畑 勝之
〃	石丸 卓司
〃	橋本 正巳
〃	林野 国三
〃	清水 友喜
9・10区民生委員児童委員協議会	長岡 孝博
〃	馬上 安郎
呉市日赤奉仕団川原石分団	常田 静江
〃	沖本 弘子

◆川原石地区自治会連合会名簿

海岸第1	川畑 勝之
海岸第2	鳥生 弘
海岸第3	西村 朗
海岸第4	長岡 孝博
海岸第5	橋本 正巳
海岸第6	津川 敏幸
海岸第7	清水 友喜
海岸第8	林野 国三
東川原石町	市田 輝彦
西川原石町	石丸 卓司
東塩屋町1区	石田 悟
東塩屋町2区	池永 二三男
西塩屋町	平松 文夫
新宮町	岡田 頼信
北塩屋町	旭野 久登
パブリコーポ	原山 直隆



平成21年12月
川原石地区まちづくり委員会